

## 2022年度人文社会科学部後援会支援事業報告書

申請者：富江直子

事業区分：学生の教育研究活動支援

事項：実地学習（茨城県内の小学校と子ども食堂）への交通費補助

期間：2022年10月—11月

対象学年：3年次 15人（うち支出者5人）

### 内容

報告項目：社会調査演習Ⅳ実地調査（3 教員担当の授業。うち富江担当学生分についての報告）

報告内容：以下に記述

### 調査のテーマ：「食の公共」から考える地域の社会関係

#### 1 調査の目的

「食の公共」をてがかりとして、個人と個人のゆるやかで自由なつながりが存在する空間と時間を、身近な地域のなかに見つけに行くことを目的として、調査に取り組みました。

学校・職場、家庭以外の第三の居場所、そして閉じた共同でもなく孤立した自助でもない第三の関係性を、地域のさまざまな方へのインタビュー調査を踏まえて考察することを目標に設定しました。

インタビュー調査に先立って、「食の公共」班の調査全体が依拠する基本文献として、藤原辰史氏の『縁食論——孤食と共食のあいだ』ミシマ社（2020年）をみんなで読み、「食」をめぐる公、共、私の境界があいまいになっていく過程のなか、個人を支える公共的な社会関係の可能性を探求するという問題意識を共有しました。

#### 2 調査の成果

調査対象によって、「給食」、「子ども食堂」、「サードプレイス」の三つのグループをつくり、それぞれ県内の小学校の先生方と子どもたち、地域で子ども食堂の活動に携わっている方々、だれにでもひらかれた場としてのシェアハウスを運営する方々とそこに集まる人びとに、インタビューを行いました。

「給食」調査の対象は、小学校の給食がコロナ禍においてどのような変化を被っているのか、それを子どもたちがどのように経験しているのか、そして子どもたちにとっての食べることの「楽しさ」とは何かということを、子どもたちへのインタビューによって明らかにしました。また、先生方へのインタビューから、給食指導における考え方や工夫などを知ることができました。学校という公共的な場における共食において、どのような関係性がつくりられているのかを考察しました。また、学校給食の意義について再認識することができました。

「子ども食堂」調査では、身近な地域で活動されている複数の子ども食堂を訪問し、それぞれの活動の特色を明らかにしました。食堂の活動に参加させていただいたり、インタビューをしたりして、子ども食堂の理念と実践が多様であり、共同と公共のあいだにあるさまざまな強さ・ゆるさの社会関係が形成されていることを知ることができました。子ど

も食堂という空間や食材のやりとりを通して、食をめぐる多様な縁が、地域に存在していることを教えていただきました。

「サードプレイス」調査では、コミュニティスペースを併設するシェアハウスでのインタビュー調査によって、公・共・私の境域が触れ合う空間としてのシェアハウスが、どのようにつくられ、そこを利用する人びとにどのように経験されているのかを知ることができました。縁側のような居心地のよい空間が、シェアハウスを運営する方々によるさまざまな工夫や気配りによって実現されていることを教えていただきました。調査を通じて、サードプレイスをめぐる従来の概念や理論的枠組みを問い直し、刷新しうる知見を得ることができました。

### 3 訪問先での活動例

訪問先での活動の様子を以下に掲げます。



後援会費からのご支援により交通費の一部をご支援いただき、心より感謝申し上げます。